

答 申 書

令和 6 年 7 月 23 日付で諮問のあった公共施設の再編整備に関することについて、次のとおり答申いたします。

令和 7 年 7 月 23 日

八千代町長 野村 勇 殿

八千代町公共施設再編整備検討委員会
委員長 上 野 政 男

はじめに

本町では、町民の暮らしを豊かにするため昭和 40 年代から 60 年代にかけて集中的に公共施設が整備されてきました。中でも中央公民館は、昭和 49 年に開設されて以来 51 年間、社会教育、生涯学習を推進する拠点施設として、公民館講座、サークル活動、各種団体の会議、イベント等に活用され、地域に欠かすことのできない集いの場、学びの場として町民の文化的生活の向上に寄与してきました。また、総合体育館は、昭和 54 年に開設されて以来 46 年間、スポーツの振興、町民の体力向上及び子供たちの健全育成の場として、大人から子供まで幅広い世代の町民に親しまれてきました。加えて、両施設は、災害時には指定避難所となり、地域住民の安全安心の拠り所にもなっております。

さらに、B&G 海洋センターは昭和 59 年、保健センターは昭和 62 年に建設され、両施設についても約 40 年の永きにわたり地域に根ざし、町民の健康増進や保健衛生、子育て支援の拠点として重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、これらの施設においては、経年による老朽化が進み、使用にあたって安全性や機能性について支障をきたすことが懸念されています。

Ⅰ 施設の概要

(1) 中央公民館

構造：鉄筋コンクリート（耐用年数 50 年※） 建設年度：昭和 49 年
耐用年数到達年度：令和 6 年度 床面積：2,383 m²

(2) 総合体育館

構造：鉄筋コンクリート（耐用年数 47 年※） 建設年度：昭和 54 年
耐用年数到達年度：令和 8 年度 床面積：3,843.33 m²

(3) B&G 海洋センター

構造：鉄骨 平屋 建設年度：昭和 59 年
床面積：1,268.77 m²

(4) 保健センター

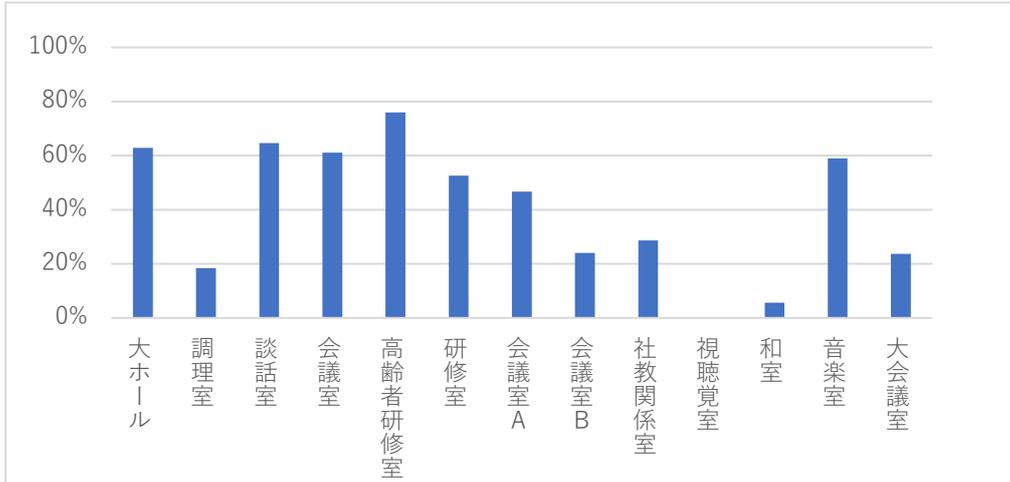
構造：鉄筋コンクリート（耐用年数 50 年※） 建設年度：昭和 62 年
耐用年数到達年度：令和 19 年度 床面積：700 m²

※耐用年数：「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に準拠する。

2 施設の利用状況

(1) 中央公民館

○利用率（令和5年度）



※令和5年度の開館日 283 日中、利用のあった日の割合

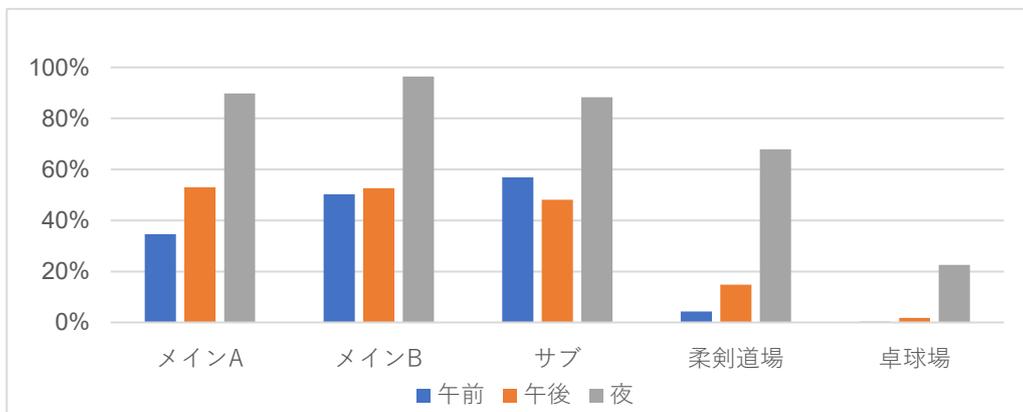
○利用者数（令和5年度）

（単位：人）

大ホール	調理室	談話室	会議室	高齢者研修室
18,828	783	1,005	1,746	2,861
研修室	会議室A	会議室B	社教関係室	視聴覚室
2,172	1,446	849	684	0
和室	音楽室	大会議室		合計
78	747	1,301		32,500

(2) 総合体育館

○利用率（令和5年度）



※令和5年度の開館日 283 日中、利用のあった午前・午後・夜の時間帯別の割合

○利用者数（令和 5 年度） （単位：人）

	メイン A	メイン B	サブ	柔剣道場	卓球場	合計
午前	98	142	162	12	1	415
午後	162	170	170	46	5	553
夜	345	463	325	217	65	1,415
合計	605	775	657	275	71	2,383

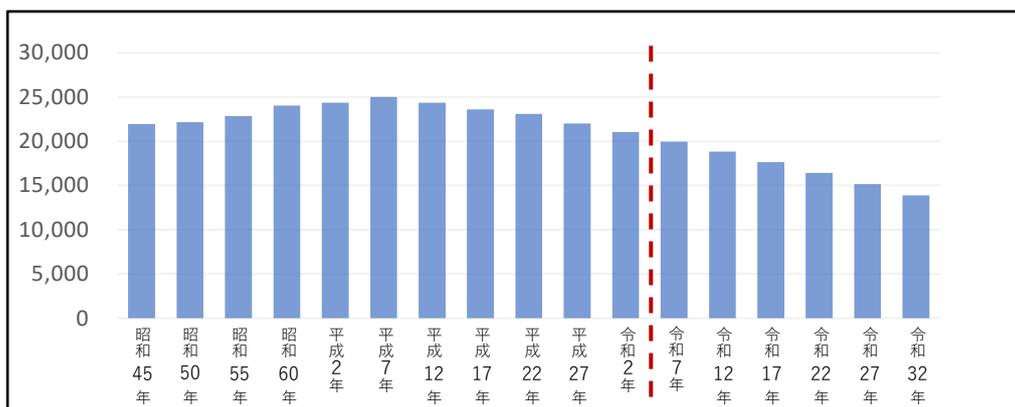
(3) B&G 海洋センター

○利用者数（令和 5 年度） （単位：人）

	学校*	幼稚園・保育園	一般開放	水泳教室	合計
利用者数	1,380	1,264	590	98	3,332

※学校は中結城小及び川西小

3 人口推移と将来人口推計



※令和 7 年以降は国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来推計人口（令和 5 年推計）」によるもの

今後、少子高齢化や人口減少の進展など、刻々と変化する社会情勢の中で地域の課題も様変わりし、これらの公共施設に求められる役割も変化することが見込まれることから、柔軟な対応を図れる施設が必要となってくることが予想されます。

そこで、中央公民館、総合体育館、B&G 海洋センター及び保健センター、これら 4 施設の再編について、町長からの諮問に対し、公共施設再編整備検討委員会で検討を行った結果、次のとおり答申をするものです。

諮問事項

- 1 公共施設の今後のあり方に関すること
- 2 公共施設を建て替えることとなった場合の建設場所及び施設に備える機能に関すること

答 申

1 公共施設の今後のあり方

中央公民館、総合体育館、B&G 海洋センター及び保健センターについて、検討委員会では、個別の建替え、複合化での建替え、両方の方法での建替えの検討を行った。個別の建替えでは、建設中の施設利用制限が最小限に抑えられることや一施設単位での整備となるため一事業当りの事業費が少額となる点、複合化での建替えの場合は、同数の施設を整備した場合に町の事業負担割合を少なくできるという利点があり、検討委員会では個別又は複合化、それぞれのメリット、デメリットを踏まえて選択するよう要望し、建替えの方法についてどちらか一つに絞らないものとする。

ただし、個別の建替えとする場合には、幅広い年代の利用者、広範な利用用途及び建設年を鑑み、中央公民館の建替えを最も優先し、新施設については、公民館という名称に捉われず、同じ用途に利用できる施設を検討すること、また、総合体育館及び保健センターは新施設建設の進捗に応じ検討を行っていくことを要望する。

また、複合化とする場合に、敷地を有効に活用するため公民館と保健センターの組合せを一例としてあげるが、総合体育館については、個別の場合と同様、新施設建設の進捗に応じ検討することを願う。

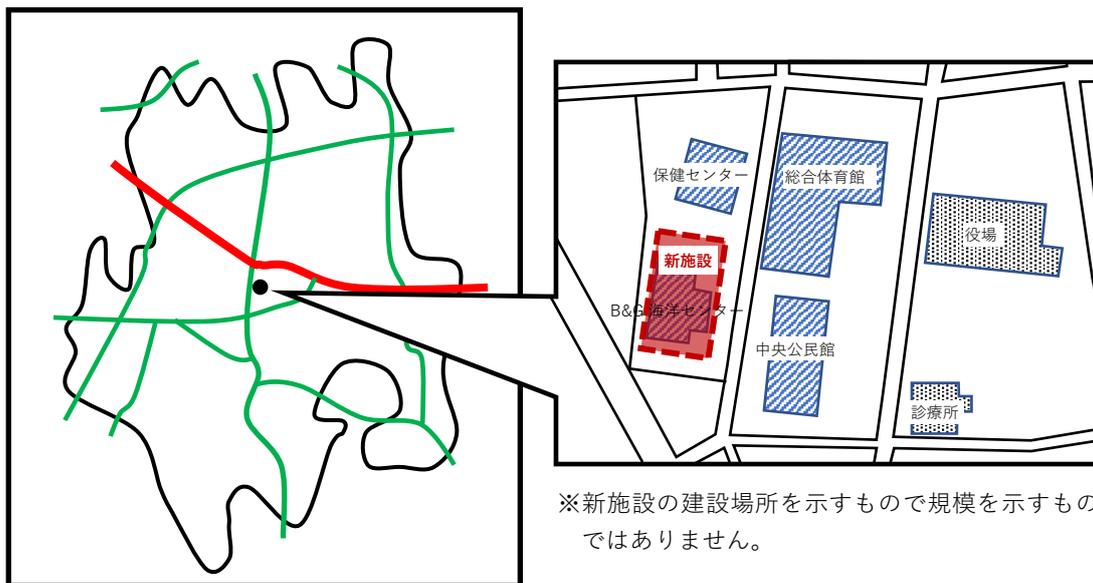
B&G 海洋センターについては、個別又は複合化いずれかの方法で建替えを図る場合でもその敷地を新施設の建設場所とするため廃止もやむをえないものとする。

新施設の規模については、個別又は複合化いずれの方法でも将来の町の人口や現施設の利用状況を鑑み、現在の施設と比べ小規模なものが望ましい。

2 建設場所及び施設に備える機能

(1) 建設場所

新施設の建設場所については、個別又は複合化での建替えにかかわらず、町が所有する土地の内、面積、洪水ハザードマップの浸水想定区域やアクセスの容易さを考慮し、現 B&G 海洋センター敷地への建設が望ましい。また、個別又は複合化で建て替える新施設以外の施設の建設地については新施設建設の進捗に応じ、検討していくことが望ましい。



(2) 施設に備える機能

新施設には以下に掲げる機能等に配慮した施設とすることを要望する。

- ・生涯学習活動が活性化し、幅広い年代が気軽に利用でき、世代間の交流を生み、子育て支援にも活用できる空間
- ・二酸化炭素の排出量と吸収量がプラスマイナス 0 の都市（ゼロカーボンシティ）実現に向けた環境配慮型の施設
- ・太陽光発電導入や外壁の高断熱化等で、年間のエネルギー消費量を抑える施設
- ・現公民館の大ホールと同程度のホールを設け、可動式客席の設置
- ・多目的に利用できるよう可変性があり、年齢、性別や国籍など個人の違いにかかわらず多くの人々が利用できる（ユニバーサルデザイン）設備
- ・高齢者や障害者等が利用する上で障壁を取り除いた設備（バリアフリーの設備）
- ・災害時避難所として利用するための必要な機能

3 その他

諮問に対する答申は上記のとおりだが、検討する過程で委員から次のような意見があったので追記する。

- ・東中学校の利活用を検討する上で、中央公民館機能の一部や保健センター機能の移転も利活用方法の一例として検討
- ・商工会の建物も老朽化していることから、今後の整備と併せての検討も必要

参 考 资 料

○会議の経過

月 日	会議内容	場所
令和6年7月23日	第1回会議 ・検討委員会設置要綱について ・委嘱書交付 ・委員長・副委員長選任 ・町公共施設の現状について ・今後のスケジュールについて	役場 大会議室
8月27日	第2回会議 ・矢板市文化スポーツ複合施設視察	栃木県矢板市
10月21日	第3回会議 ・整備の方向性について ・建設地について ・新施設に備える機能について	役場 大会議室
11月29日	第4回会議 ・施設の利用状況について ・整備の方向性について	役場 大会議室
令和7年1月23日	第5回会議 ・整備の方向性について ・新施設に備える機能について	役場 大会議室
3月27日	第6回会議 ・整備の方向性について	役場 大会議室
5月19日	第7回会議 ・これまでの検討委員会のまとめ ・答申に記載すること	役場 大会議室
6月30日	第8回会議 ・答申（案）について	役場 大会議室